

第2期 柳井市スポーツ推進計画

〈2025－2034〉

(案)

令和7年（2025年） 月

柳井市教育委員会

目 次

第1章 スポーツ推進計画の基本的な考え方	3
1 計画策定の趣旨	3
2 計画の位置付け	4
3 計画の期間	4
第2章 本市スポーツの現状と課題	5
1 人口の推移と見通し	5
2 柳井市スポーツ活動に関する市民アンケート調査	6
3 体育施設の利用状況	20
4 スポーツ組織・大会等	22
5 前計画の達成状況	25
第3章 計画の基本理念と基本方針	28
1 基本理念	28
2 基本方針	28
3 施策の柱	28
4 施策体系	29
第4章 計画の具体的な取組	30
1 施策の柱1 スポーツを「つくる／はぐくむ」	30
2 施策の柱2 スポーツで「あつまり、ともに、つながる」	35
3 施策の柱3 スポーツに「誰もがアクセスできる」	40
第5章 計画の推進体制	45
1 市民・関係機関との連携・協働	45
2 計画の進捗管理	45
3 計画の達成状況の検証	45

第1章 スポーツ推進計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

スポーツは、市民の心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得など大きな影響力を持ち、私たちすべての市民に明るく、生きがいのある豊かな生活をもたらし、活気のあるまちづくりを進める上で、大切な役割を果たすものです。

本市では、平成27年3月に、本市のスポーツ振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的事項及びその他の必要事項を定める柳井市スポーツ推進計画（第1期）を策定し、様々な施策に総合的かつ計画的に取り組んできました。

一方、国においては平成27年10月にスポーツ庁が発足し、令和4年3月に「第3期スポーツ基本計画（※1）」が策定されています。

また、山口県では、平成28年4月に観光スポーツ文化部が創設され、スポーツ振興をはじめ、スポーツによる交流人口の拡大や地域活性化に向けた施策を展開しており、令和5年3月には、「やまぐちスポーツ推進プラン2022」が策定されました。

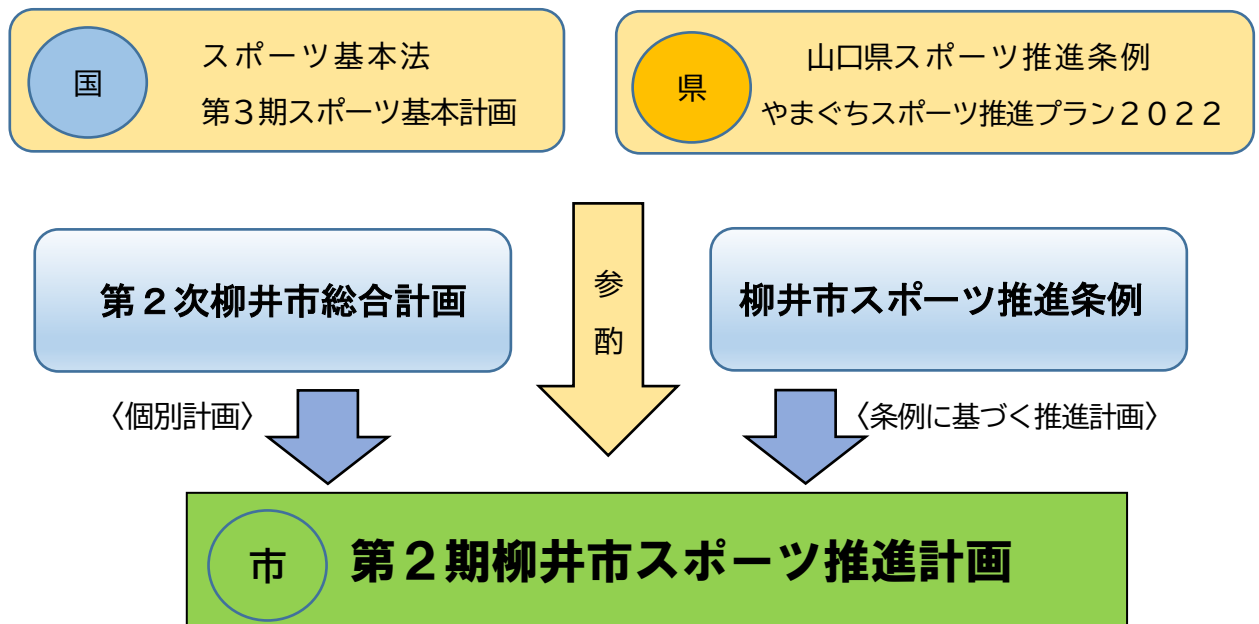
市においても、少子化や高齢化の進行に加え、近年では新型コロナウイルス感染症の感染拡大などにより、市民のスポーツ活動の機会や環境が大きく変化してきました。これらの課題に対応しつつ、スポーツの持つ多様な力を様々な分野で効果的に活用することで、市民一人ひとりが健康でいきいきと暮らせるまちを実現することが求められています。

このような状況を踏まえ、本市では『スポーツの力で、健康と笑顔があふれる柳井へ』という基本理念を掲げ、第1期計画の基本的な考え方を継承しつつ、さらなる発展を目指すため、「第2期柳井市スポーツ推進計画」を策定します。

本計画では、今後のスポーツ振興の方向性を明確にし、市民一人ひとりが生涯を通じてスポーツに親しむことができる環境づくりを推進するとともに、スポーツを通じた地域の活性化や健康増進に向けた具体的な施策を展開していきます。

2 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条の規定に基づく地方スポーツ推進計画及び柳井市スポーツ推進条例第6条の規定に基づく計画として位置付けられるものであり、柳井市スポーツ推進条例の理念を基本として、国の第3期スポーツ基本計画、やまぐちスポーツ推進プラン2022との整合性を図り策定するものです。



3 計画の期間

本計画は、令和7年度から令和16年度までの10年間を計画の実施期間とします。なお、計画の中間年である令和11年度に計画の進捗状況等を検証し、見直しを行います。

年 度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
第2期スポーツ推進計画					○					

○は中間見直し

第2章 本市スポーツの現状と課題

1 人口の推移と見通し

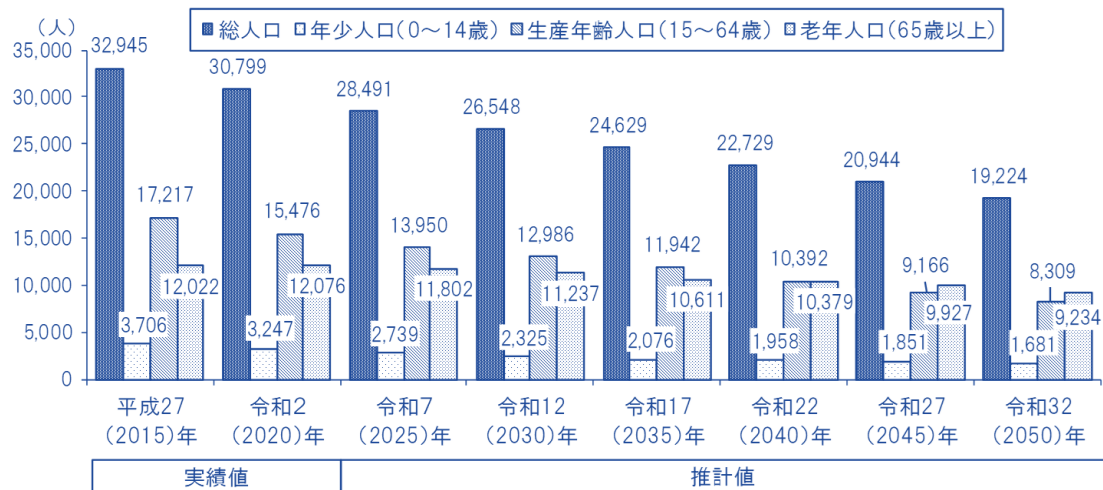
本市の総人口は減少傾向にあり、令和2年（2020年）には30,799人となりました。今後も人口減少が続くと見込まれています。

年齢区分別人口割合の推移を見ると、14歳以下の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口の割合は減少傾向にあります。特に年少人口は、令和32年（2050年）には1,681人まで減少すると推計されています。

一方、65歳以上の老年人口の割合は増加傾向にあるものの、令和2（2020年）年の12,076人をピークとした後、減少に転じる見込みです。

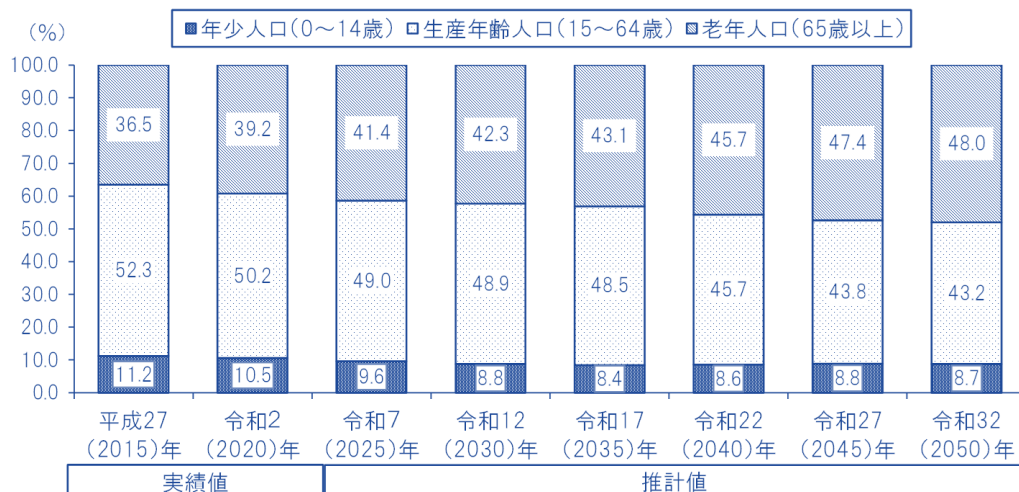
また、令和32年（2050年）には高齢化率が48.0%に達すると推計されています。

■総人口・年齢区分別人口の推移と予測■



資料：令和2（2020）年までの総人口は、国勢調査確定値。年齢区分別人口は年齢不詳補完値
令和7（2025）年以降は、国立社会保障・人口問題研究所推計値

■年齢区分別人口の推移と予測■



資料：令和2（2020）年までは国勢調査年齢不詳補完値による割合
令和7（2025）年以降は、国立社会保障・人口問題研究所推計値

2 柳井市スポーツ活動に関する市民アンケート調査

第1期スポーツ推進計画の振り返りと第2期スポーツ推進計画の基礎資料とするため、令和6年度に「柳井市スポーツ活動に関する市民アンケート調査」（以下「アンケート調査」という。）を実施しました。

（1）調査の概要

対象 区分	成人	子ども	
		小学校5年生	中学校2年生
調査対象者	18歳以上の市民 (令和6年9月1日現在)	市内11校	市内3校
調査方法	郵送による配布・回収	学校に配布し、Web回答	
調査期間	令和6年9月10日～ 令和6年11月25日	令和6年11月1日～ 令和6年11月29日	
調査数	1,000件(無作為抽出)	206件	251件
有効回答	386件	184件	193件
有効回答	38.6%	89.3%	76.9%

成人の地区別回収率

	調査数	回収数	回収率
柳井	526	189	35.9%
日積	42	17	40.5%
伊陸	46	19	41.3%
新庄	141	54	38.3%
余田	46	15	32.6%
伊保庄	87	42	48.3%
阿月	20	5	25.0%
平郡	8	0	0.0%
大畠	84	35	41.7%
無回答	—	10	—
合計	1,000	386	38.6%

成人の男女別回収率

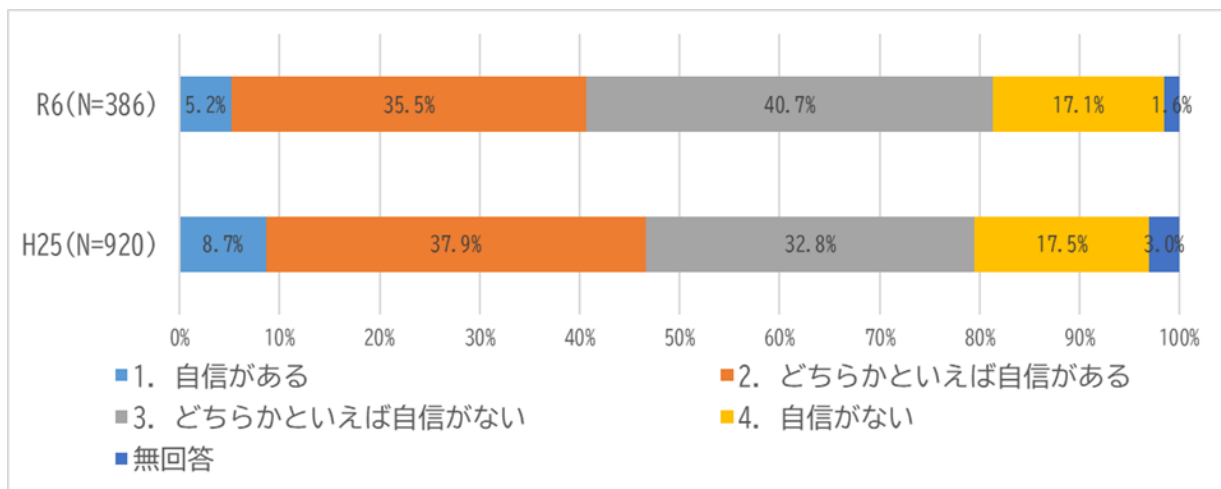
	調査数	回収数	回収率
男	500	158	31.6%
女	500	215	43.0%
無回答	—	13	—
合計	1,000	386	38.6%

(2) 成人の調査結果

① 健康状態について（ご自身の健康に自信がありますか。）

「柳井市スポーツ活動に関する市民アンケート調査」によると、健康に対する意識は、「自信がある」が5.2%、「どちらかといえば自信がある」が35.5%となっており、ある程度以上健康であると回答された方は、40.7%と半数に達していません。

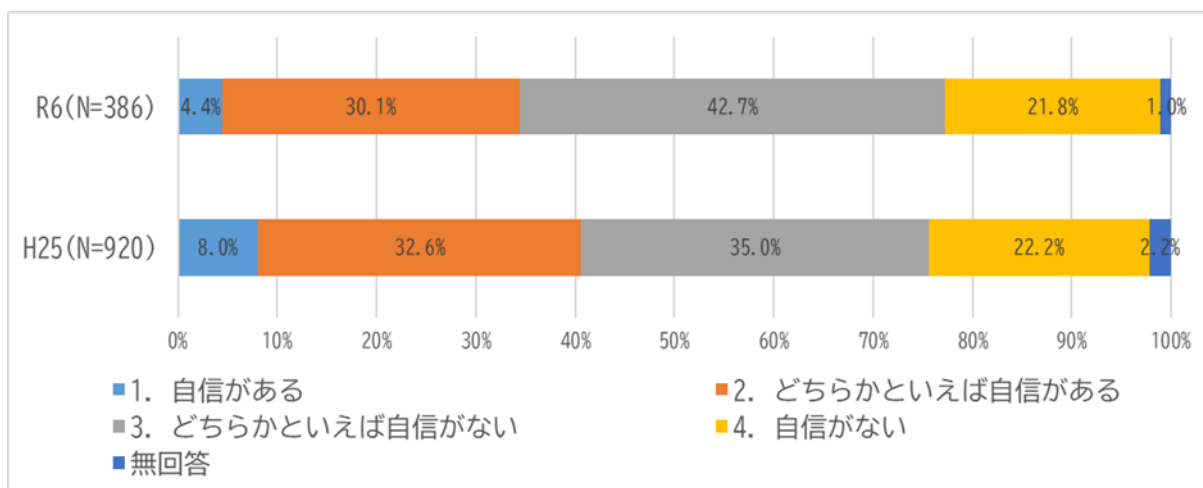
一方、平成25年度調査では、「自信がある」が8.7%、「どちらかといえば自信がある」が37.9%となっており、合わせて46.6%の方が健康に「自信がある」と回答していました。令和6年度と平成25年度の結果を比較すると、ある程度以上健康に自信があると回答した割合は5.9ポイント減少しており、市民の健康に対する自信がやや低下していることが分かります。



② 体力について（自分の体力に自信がありますか。）

アンケート調査によると、自分自身の体力については、「自信がある」が4.4%、「どちらかといえば自信がある」が30.1%となっており、ある程度以上自信があると回答された方は、34.5%と半数に達していません。

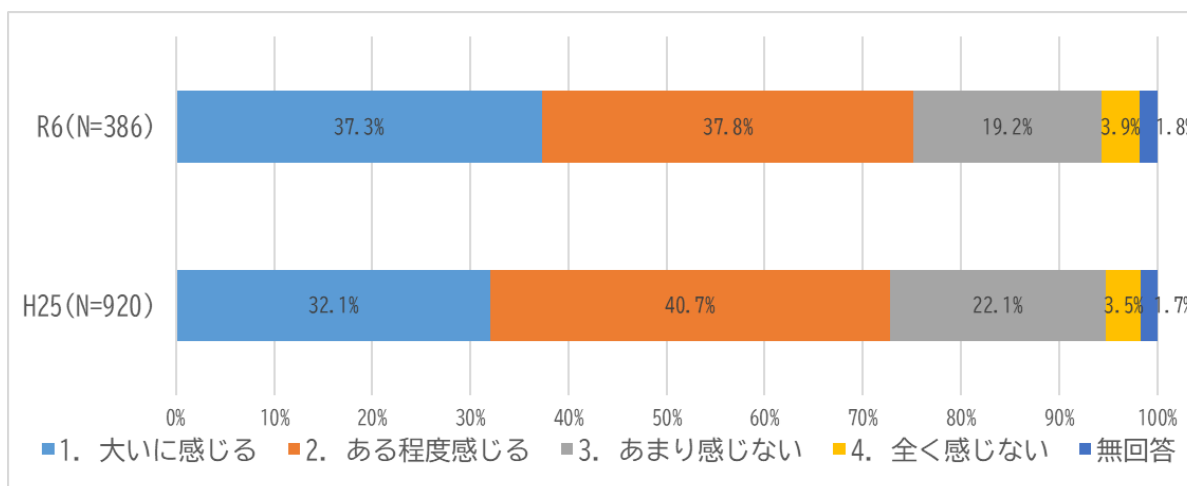
一方、平成25年度調査では、「自信がある」が8.0%、「どちらかといえば自信がある」が32.6%となっており、合わせて40.6%の方が体力に「自信がある」と回答していました。令和6年と平成25年度の結果を比較すると、ある程度以上体力に自信があると回答した割合は6.1ポイント減少しており、市民の体力に対する自信がやや低下していることが分かります。



③ 運動について（普段の生活において、運動不足であると感じますか。）

アンケート調査によると、運動不足を「大いに感じる」が37.3%、「ある程度感じる」が37.8%となっており、運動不足と感じていると回答された方は75.1%で4人に3人が運動不足を感じています。

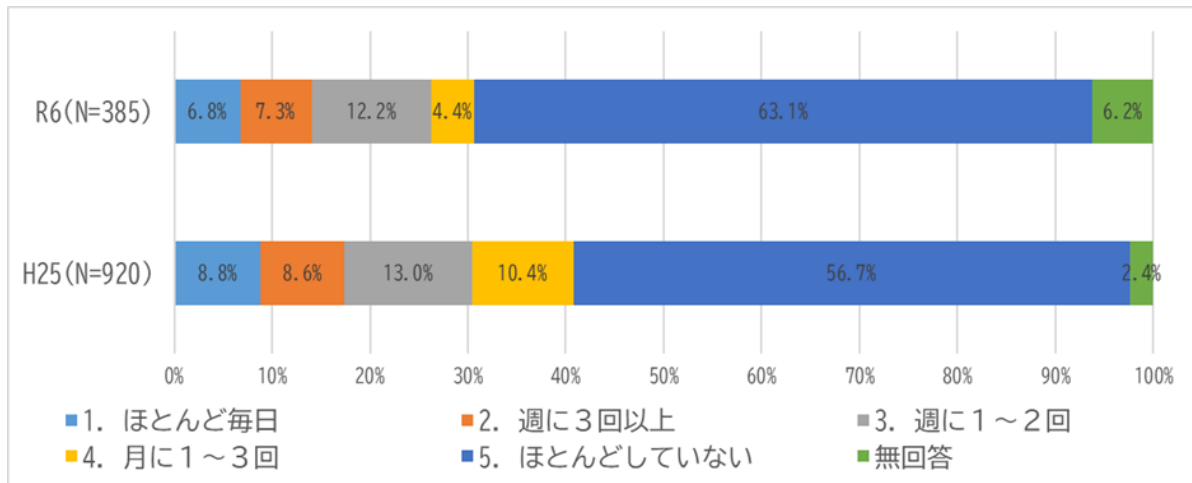
一方、平成25年度調査では、「大いに感じる」が32.1%、「ある程度感じる」が40.7%となっており、合わせて72.8%の方が運動不足を感じていました。令和6年と平成25年度の結果を比較すると、運動不足を感じる割合は2.3ポイント増加しており、市民の運動不足に対する意識がより高まっていることが分かります。



④ スポーツの実施について（日頃、スポーツ活動をどのくらい行っていますか。）

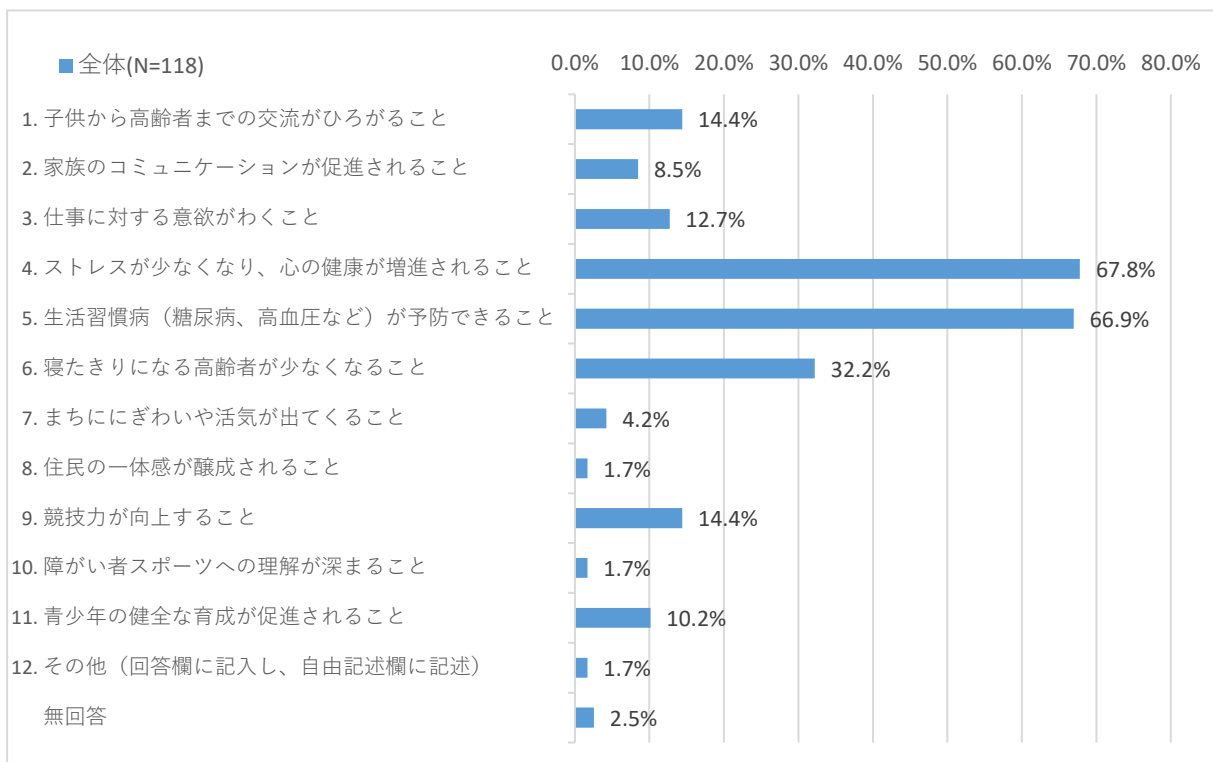
アンケート調査によると、「ほとんどしていない」が63.1%となっており、「週1回以上」行っていると答えた方は26.3%でした。

一方、平成25年度調査では、「ほとんどしていない」が56.7%、「週1回以上」行っていると答えた方は30.4%でした。令和6年度と平成25年度の結果を比較すると、「ほとんどしていない」と回答した割合は6.4ポイント増加し、「週1回以上」と回答した割合は4.1ポイント減少しており、市民の運動習慣が減少傾向にあることが分かります。



⑤ スポーツを行う理由について（スポーツ活動をすることでどのような効果を期待しますか。）

アンケート調査によると、「ストレスが少なくなり、心の健康が増進されること」が67.8%で最も高く、「生活習慣病（糖尿病、高血圧など）が予防できること」66.9%、「寝たきりになる高齢者が少なくなること」32.2%と続いています。

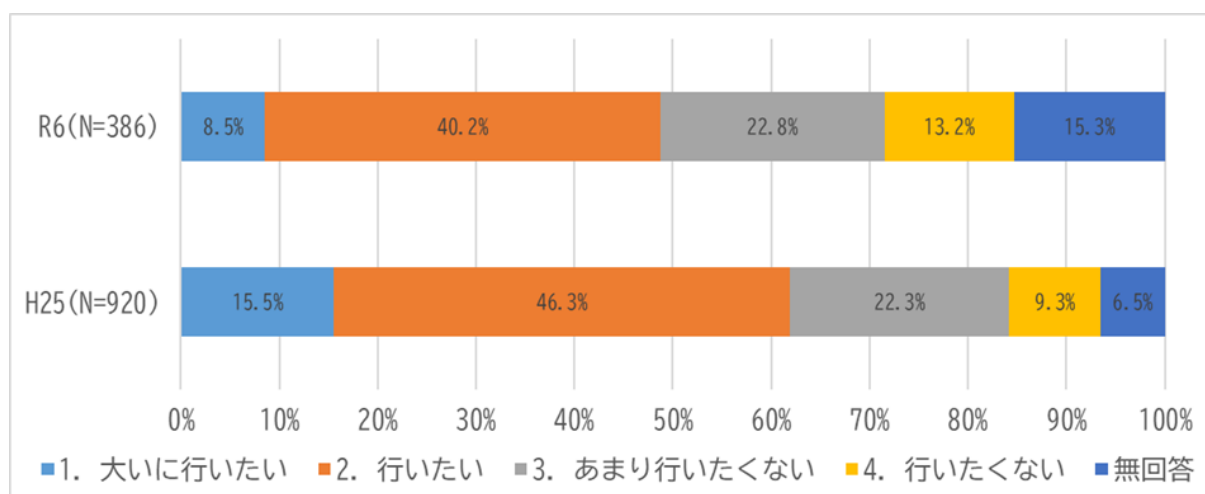


⑥ 今後のスポーツ活動について（今後、スポーツ活動を行いたいですか。）

アンケート調査によると、「大に行いたい」が8.5%、「行いたい」が40.2%で、48.7%の約半数の方がスポーツ活動を行いたいと回答しています。具体的に行いたいスポーツとして、「ウォーキング」が59.1%、「ジムやスポーツ教室」が45.2%、「ジョギング・ランニング」が31.2%と上位を占めています。

一方、平成25年度調査では、「大に行いたい」が15.5%、「行いたい」が46.3%で、合わせて61.8%の方がスポーツ活動を行いたいと回答していました。

令和6年と平成25年度の結果を比較すると、スポーツ活動を希望する割合は13.1ポイント減少しており、市民のスポーツへの関心が低下していることが分かります。



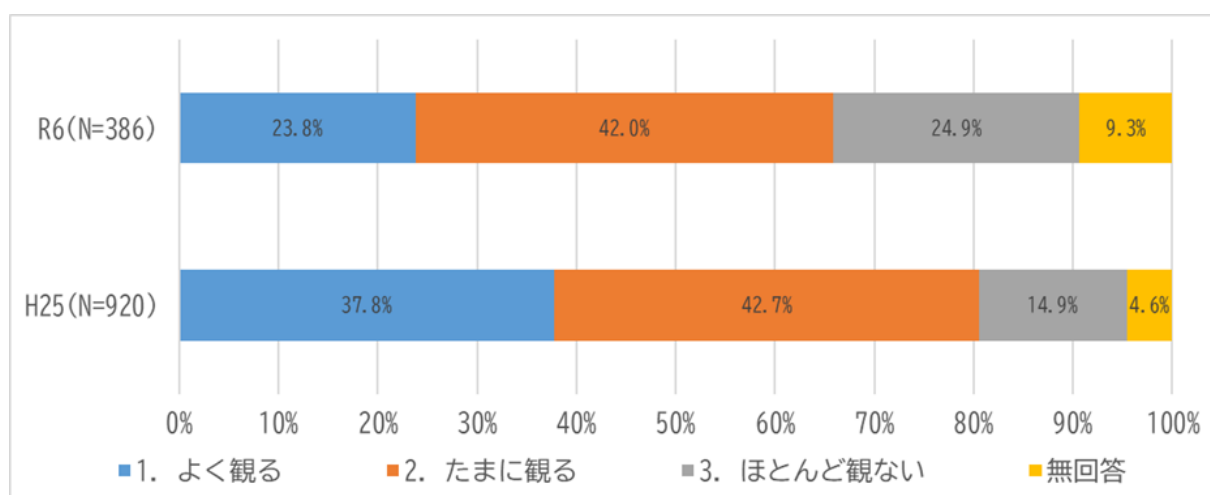
		1 陸上競技	2 ジョギング・ランニング	3 ウォーキング	4 ジムやスポーツ教室	5 球技	6 武道等	7 ダンス	8 レクリエーションスポーツ (ソフトバレー、インディアカなど)	9 eスポーツ	10 その他	無回答
全 体	N= 186	2.2%	31.2%	59.1%	45.2%	24.7%	9.1%	10.8%	9.7%	4.3%	5.9%	4.8%
1. 10 歳代	N= 2	-	100%	-	50.0%	50.0%	-	-	-	-	-	-
2. 20 歳代	N= 12	-	16.7%	50.0%	58.3%	33.3%	-	-	33.3%	8.3%	-	-
3. 30 歳代	N= 21	-	42.9%	33.3%	52.4%	9.5%	19.0%	19.0%	4.8%	4.8%	14.3%	4.8%
4. 40 歳代	N= 26	-	38.5%	57.7%	46.2%	23.1%	-	15.4%	15.4%	-	-	-
5. 50 歳代	N= 40	2.5%	35.0%	72.5%	47.5%	22.5%	12.5%	7.5%	10.0%	5.0%	12.5%	5.0%
6. 60 歳代	N= 45	2.2%	17.8%	62.2%	44.4%	20.0%	11.1%	8.9%	8.9%	6.7%	6.7%	2.2%
7. 70 歳代	N= 27	3.7%	33.3%	66.7%	33.3%	37.0%	7.4%	11.1%	3.7%	-	-	7.4%
8. 80 歳以上	N= 13	7.7%	30.8%	53.8%	38.5%	38.5%	7.7%	15.4%	-	7.7%	-	23.1%

⑦ スポーツ観戦について（テレビやインターネット、会場などでスポーツを観戦することはありませんか。）

アンケート調査によると、「よく観る」が23.8%、「たまに観る」が42.0%でスポーツ観戦する方は65.8%となっており、「ほとんど観ない」が24.9%となっています。観戦したスポーツとしては、「野球」、「バレー」が多く、次いで、「サッカー」と球技の割合が高くなっています。

一方、平成25年度調査では、「よく観る」が37.8%、「たまに観る」が42.7%で、合わせて80.5%の方がスポーツ観戦すると回答していました。「ほとんど観ない」が14.9%となっています。

令和6年度と平成25年度の結果を比較すると、スポーツ観戦の割合は14.7ポイント減少しており低下が見られました。また、「ほとんど観ない」と回答した割合は10.0ポイント増加しており、市民のスポーツ観戦への関心が低下していることが分かります。



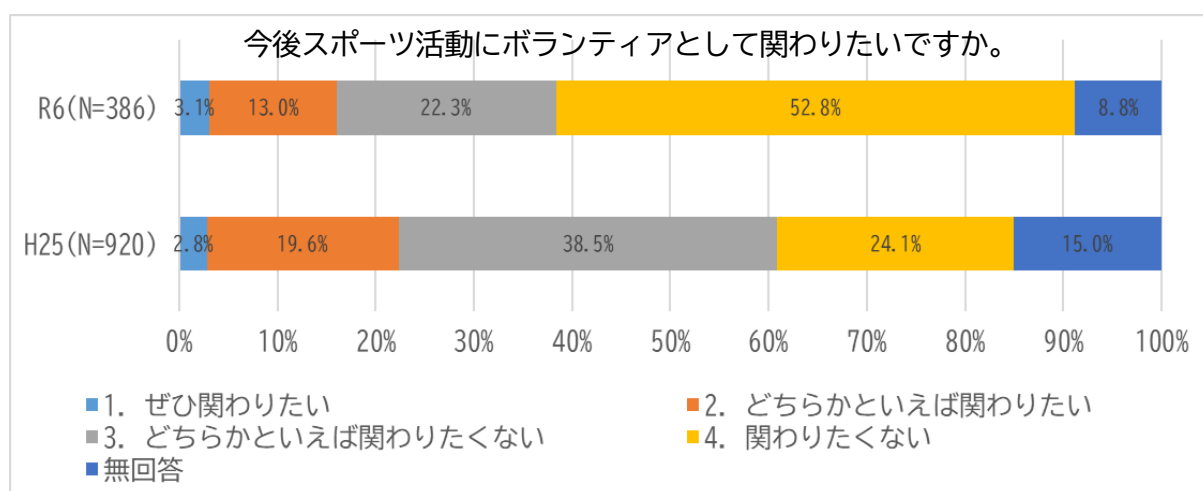
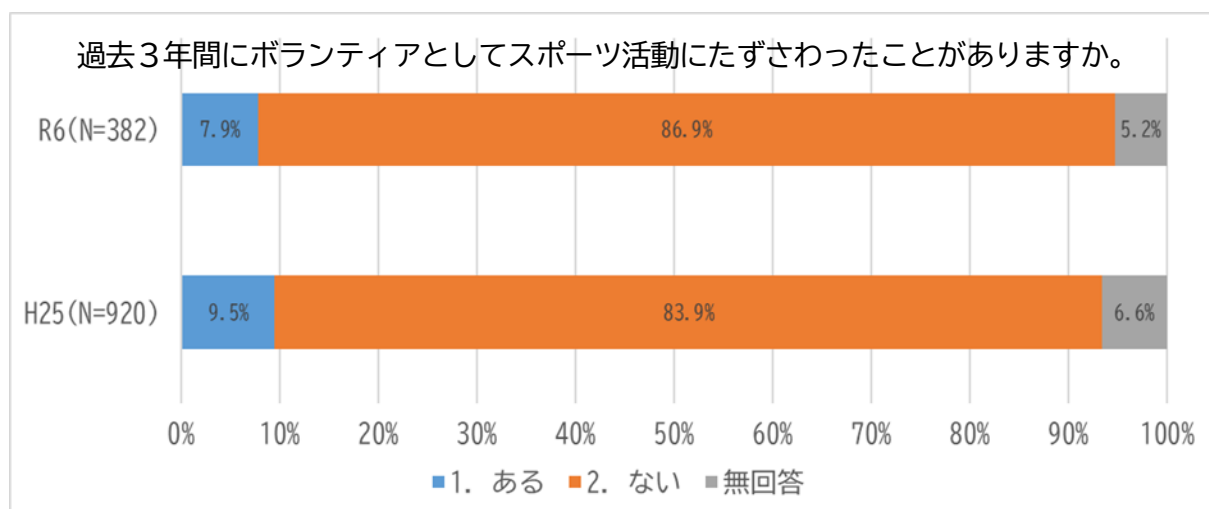
(単位：件数)

野球	202
バレーボール	117
サッカー	110
バスケットボール	105
卓球	76
陸上競技	71
バドミントン	54
テニス	50
水泳	39
柔道	30
剣道	12
グラウンド・ゴルフ	12
レスリング	11
ソフトボール	10
スキー	10

相撲	10
ゴルフ	9
自転車競技	7
ソフトテニス	5
弓道	5
e スポーツ	5
フェンシング	4
合気道	4
空手道	3
ラグビー	3
フィギュアスケート	2
アーチェリー	1
ゲートボール	1
その他	13

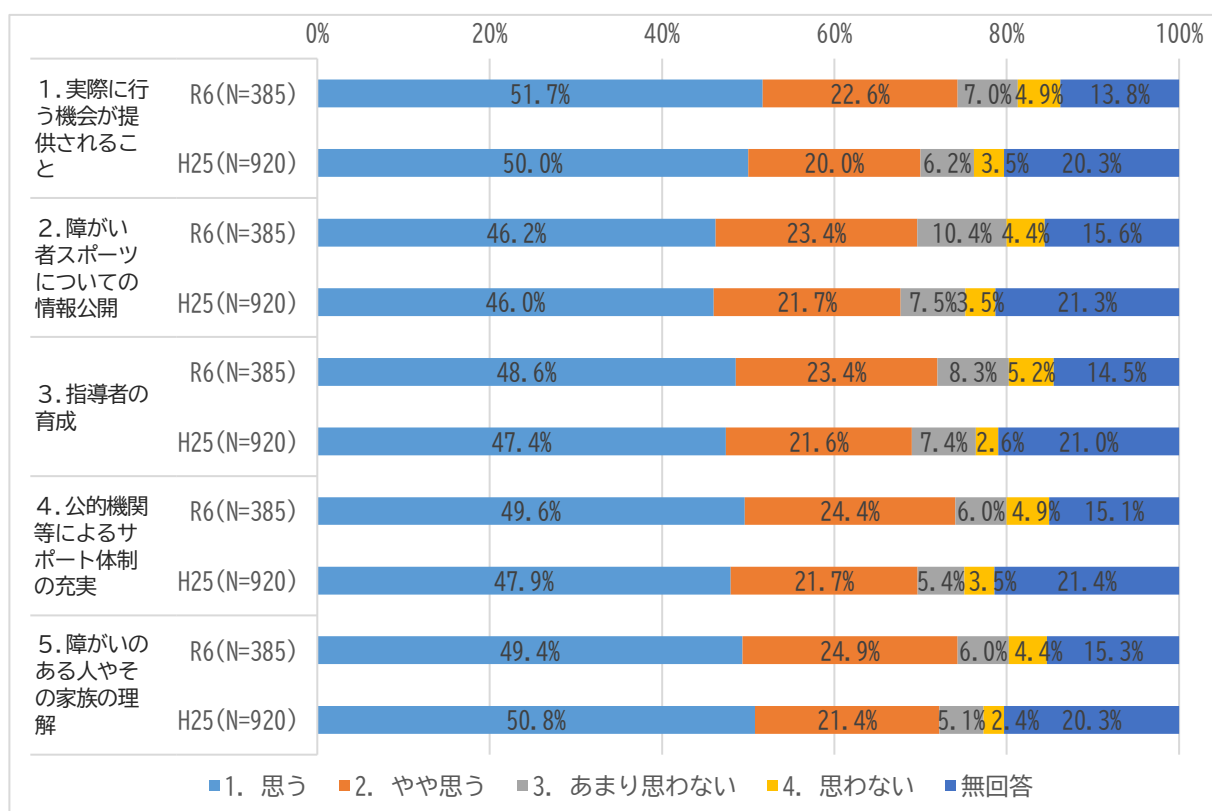
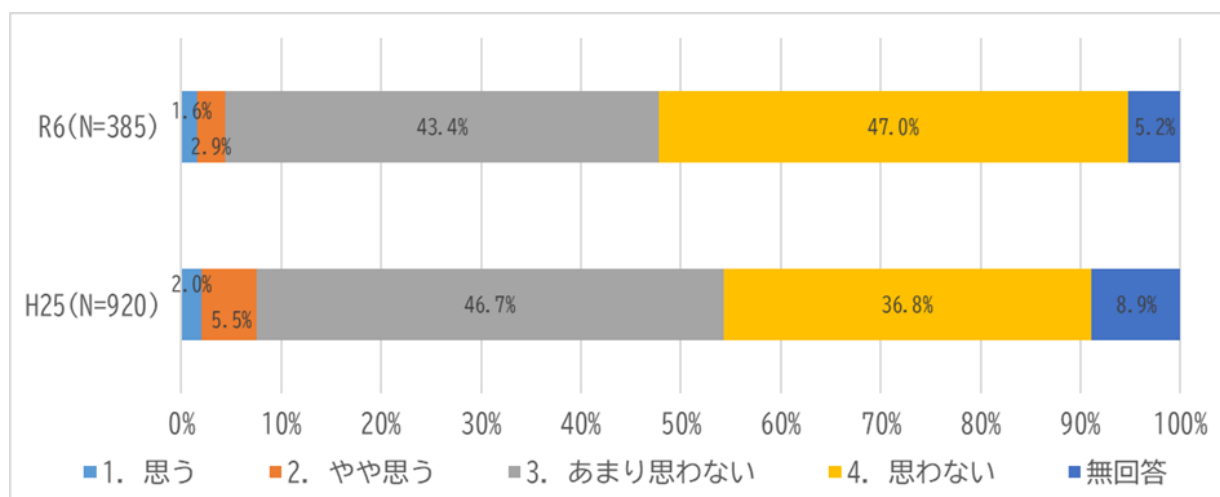
⑧ スポーツボランティア活動について（過去3年間にボランティアとしてスポーツ活動にたずさわったことがありますか。また、今後関わりたいですか。）

アンケート調査によると、現在、8割以上の方がスポーツボランティア活動に消極的な意見を持ち、今後についても7割以上の方が関わる意思がないと回答しています。この傾向は平成25年度の調査から大きな変化はありませんが、令和6年度調査では、「今後ボランティアとして関わりたいくない」と考える方が大幅に増加しています。



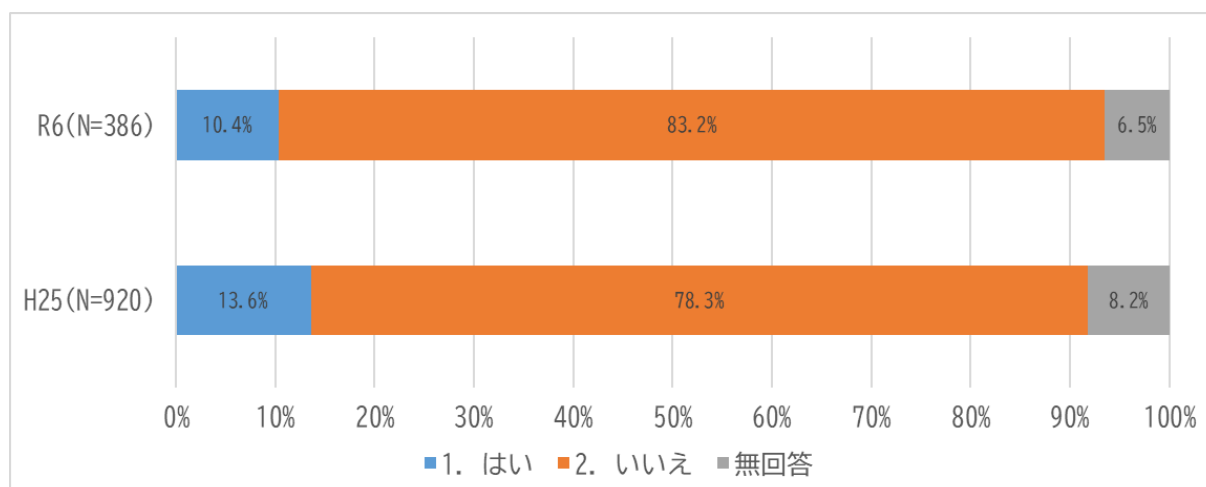
⑨ 障がいのある方のスポーツ活動について（あなたは、職場や住んでいる地域で、障がいのある人たちのスポーツ活動が普及していると思いますか。）

アンケート調査によると、「あまり思わない」、「思わない」が9割を超え、普及のために必要な項目について、いずれの項目においても7割前後の方が必要性を感じています。この傾向は平成25年度の調査においても変わりありません。



⑩ 総合型地域スポーツクラブについて（総合型地域スポーツクラブを知っていますか。）

アンケート調査によると、「いいえ」が83.2%と認知度の低さが分かります。この傾向は平成25年度の調査においても変わりありませんが、やや増加しています。



⑪ スポーツ活動施設について（どのような場所でスポーツ活動を行っていますか。）

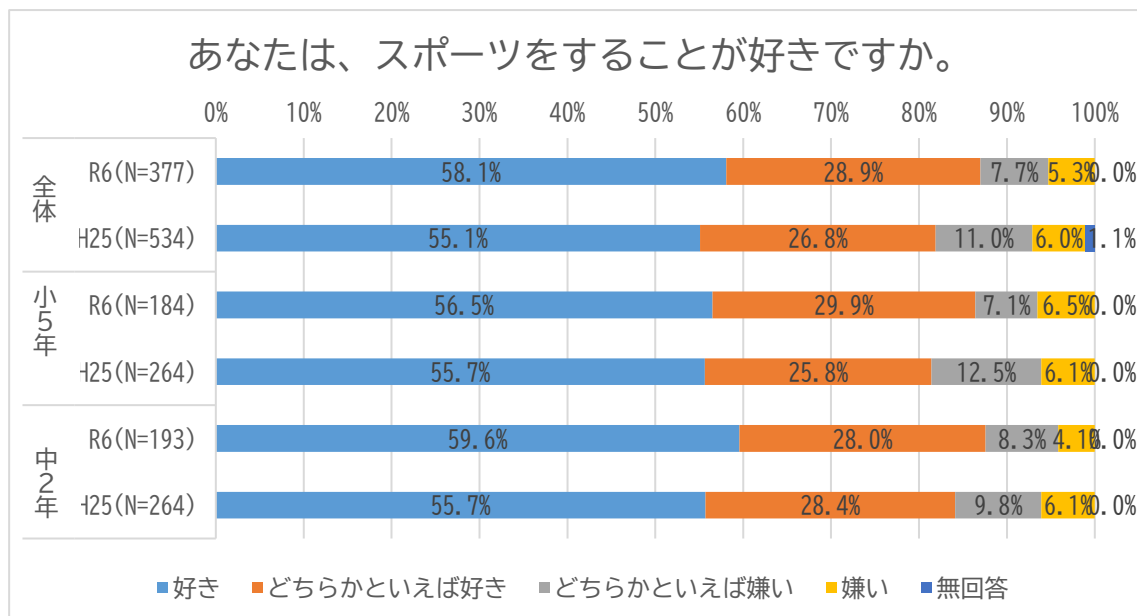
アンケート調査によると、「自宅近所の道路や空き地」が45.7%で最も高く、「市内の公共施設」27.6%、「自宅」20.7%と続いています。

		1 自宅	2 自宅近所の道路や空き地	3 公園や広場	4 住んでいる地域の学校施設	5 住んでいる地域以外の学校施設	6 市内の公共施設	7 市内の民間施設	8 市外の公共施設	9 市外の民間施設	10 その他	無回答
全 体	N= 116	20.7%	45.7%	16.4%	9.5%	3.4%	27.6%	12.9%	7.8%	9.5%	5.2%	3.4%
1. 10 歳代	N= 1	-	-	100%	100%	100%	100%	-	100%	-	-	-
2. 20 歳代	N= 3	33.3%	33.3%	-	-	33.3%	-	-	66.7%	33.3%	-	-
3. 30 歳代	N= 7	28.6%	57.1%	57.1%	-	-	28.6%	-	-	-	14.3%	14.3%
4. 40 歳代	N= 12	33.3%	41.7%	33.3%	25.0%	8.3%	16.7%	16.7%	8.3%	8.3%	-	-
5. 50 歳代	N= 25	16.0%	56.0%	4.0%	4.0%	4.0%	24.0%	12.0%	12.0%	4.0%	8.0%	4.0%
6. 60 歳代	N= 27	14.8%	37.0%	7.4%	11.1%	-	33.3%	29.6%	3.7%	18.5%	3.7%	3.7%
7. 70 歳代	N= 29	20.7%	48.3%	17.2%	6.9%	-	24.1%	6.9%	-	10.3%	3.4%	3.4%
8. 80 歳以上	N= 12	25.0%	41.7%	16.7%	8.3%	-	41.7%	-	8.3%	-	8.3%	-

(3) 小中学生の調査結果

① スポーツへの愛着について（あなたはスポーツをすることが好きですか。）

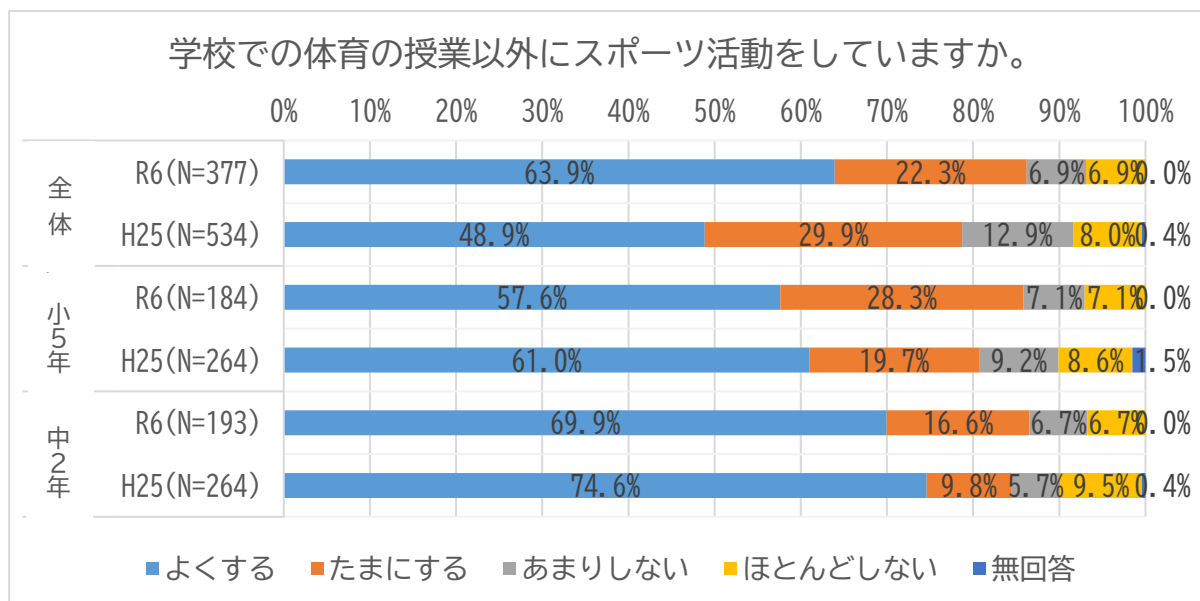
小学生については小学5年生を、中学生については中学2年生をそれぞれ対象としています。アンケート調査によると、全体で「好き」、「どちらかといえば好き」が87.0%となっています。平成25年度調査では、81.9%となっており、令和6年度と平成25年度の結果を比較すると5.1%増加しています。



② スポーツ活動について（学校での体育の授業以外にスポーツ活動をしていますか。）

アンケート調査によると、「よくする」、「たまにする」が86.2%となっており、平成25年度調査に比べ、7.4ポイント増加しています。「よくする」、「たまにする」と答えた小中学生の活動場所として、小学生は「スポーツ少年団や地域のクラブで」が53.8%、中学生は「学校のクラブ活動や部活動で」が81.4%とそれぞれ最も高くなっています。また、「あまりしない」、「ほとんどしていない」と答えた小中学生のうち、小中学生とも「スポーツや運動が苦手だから」が約5割を理由として挙げています。

スポーツ活動をする理由としては、「スポーツや運動が好き・楽しいから」が67.1%と最も高くなっており、これは平成25年度調査の結果から変わっていません。スポーツや運動をしてよかった理由として、「友だちや仲間が増えた」が71.7%と最も高くなっています。



③ どのようにスポーツ活動をしていますか。

	学校のクラブや部活動で		スポーツ少年団や地域のクラブで		友達との遊びで		家族や兄弟姉妹で		その他		無回答	
	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25
合 計	49.2%	54.1%	41.2%	41.5%	29.5%	31.3%	24.9%	23.4%	10.2%	9.5%	0.9%	2.3%
小学5年生	15.2%	14.9%	53.8%	66.8%	34.2%	43.3%	26.6%	33.2%	11.4%	12.0%	1.3%	2.4%
中学2年生	81.4%	90.6%	29.3%	17.9%	25.1%	20.2%	23.4%	14.3%	9.0%	7.2%	0.6%	2.2%

R6 全体(N=325), 小学5年生(N=158), 中学2年生(N=167) H25 全体(N=431), 小学5年生(N=208), 中学2年生(N=223)

- ④ あなたがスポーツ活動をする理由は何ですか。
(当てはまる番号を3つまで選んでください。)

	スポーツや運動が好き、楽しいから		気分がすっきりするから		体力や筋力をつけたいから		病气やけがのリハビリのため		うまくなりたいから	
	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25
合 計	67.1%	66.6%	19.1%	19.3%	36.9%	42.0%	0.9%	1.9%	50.5%	46.4%
小学5年生	65.8%	63.9%	14.6%	15.9%	37.3%	34.6%	0.0%	2.4%	50.0%	45.7%
中学2年生	68.3%	69.1%	23.4%	22.4%	36.5%	48.9%	1.8%	1.3%	50.9%	47.1%

	試合で活躍したいから		友達にさそわれたから		親や兄弟姉妹に・先生にすすめられたから		その他		無回答	
	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25
合 計	26.2%	23.2%	10.5%	14.6%	9.2%	10.4%	3.4%	6.0%	0.6%	1.6%
小学5年生	20.9%	15.9%	10.8%	14.9%	10.8%	12.0%	3.2%	5.8%	0.6%	1.9%
中学2年生	31.1%	30.0%	10.2%	14.3%	7.8%	9.0%	3.6%	6.3%	0.6%	1.3%

R6 全体(N=325), 小学5年生(N=158), 中学2年生(N=167) H25 全体(N=431), 小学5年生(N=208), 中学2年生(N=223)

⑤ スポーツや運動をあまりしない、ほとんどしない理由は何ですか。

(当てはまる番号3つまで選んでください。)

	スポーツに興味がないから		スポーツや運動が苦手だから		スポーツをする場所がないから		ほかにしたいことがあるから		一緒にする仲間がないから	
	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25
合 計	32.7%	25.3%	53.8%	53.6%	19.2%	8.4%	44.2%	32.6%	13.5%	9.5%
小学5年生	42.3%	27.3%	53.8%	52.7%	11.5%	7.3%	34.6%	20.0%	7.7%	7.3%
中学2年生	23.1%	22.5%	53.8%	52.5%	26.9%	10.0%	53.8%	50.0%	19.2%	12.5%

	教えてくれる人がいないから		勉強や習い事でいそがしいから		してみたいスポーツがないから		その他		無回答	
	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25
合 計	1.9%	6.3%	11.5%	25.3%	26.9%	23.2%	5.8%	9.5%	3.8%	1.1%
小学5年生	0.0%	10.9%	15.4%	20.0%	34.6%	20.0%	11.5%	9.1%	7.7%	1.8%
中学2年生	3.8%	0.0%	7.7%	32.5%	19.2%	27.5%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%

R6 全体(N=52), 小学5年生(N=26), 中学2年生(N=26) H25 全体(N=95), 小学5年生(N=55), 中学2年生(N=40)

⑦ あなたがスポーツや運動をしてよかったと思うことは何ですか。

(当てはまる番号を3つまで選んでください。)

	友達や仲間が増えた。		良き指導者や大人と出会えた。		体力や筋力がついた。		病气やけがのリハビリになった。		さっぱりとした気持ちになれる。 (平成心身が健康になった)	
	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25
合計	71.7%	68.0%	22.5%	20.4%	48.6%	52.2%	0.6%	1.4%	17.8%	16.2%
小学5年生	70.9%	66.3%	15.8%	15.9%	49.4%	41.8%	0.6%	1.9%	15.8%	11.1%
中学2年生	72.5%	69.5%	28.7%	24.7%	47.9%	61.9%	0.6%	0.9%	19.8%	21.1%

	あきらめない心が身についた。		試合で活躍することができた。		その他		無回答	
	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25
合 計	31.4%	16.2%	27.7%	35.7%	3.7%	3.5%	0.6%	2.3%
小学5年生	32.3%	11.1%	21.5%	34.6%	3.8%	4.8%	0.6%	2.9%
中学2年生	30.5%	21.1%	33.5%	36.8%	3.6%	2.2%	0.6%	1.8%

R6 全体(N=325), 小学5年生(N=158), 中学2年生(N=167) H25 全体(N=431), 小学5年生(N=208), 中学2年生(N=223)

3 体育施設の利用状況

施設名	所在地	利用時間	令和5年度 利用人数（人）
バタフライアリーナ(体育館)	柳井3714番地3	9:00~22:00 ※改修工事のため、令和 5年11月以降は休館	
メインアリーナ			16,427 〔参考：令和4年度〕 23,933〕
サブアリーナ			8,072 〔参考：令和4年度〕 14,943〕
会議室等			1,981 〔参考：令和4年度〕 3,389〕
ビジコム柳井スタジアム (市民球場)	南浜三丁目2番1号	9:00~17:00	グラウンド 9,376 スタンド 17,622 その他 1,429
南浜グラウンド	南浜三丁目 670番9、 675番17	5:00~22:00 (12月28日~1月4 日は、9:00~17: 00)	野球 8,330 ソフトボール 598 サッカー 9,854 グラウンドゴルフ 3,152 その他 3,420
南浜テニスコート	南浜三丁目 675番17	5:00~22:00 (12月28日~1月4 日は、9:00~17: 00)	軟式 8,524
小田浜グラウンド	伊保庄4853番2	5:00~20:00 (12月28日~1月4 日は、9:00~17: 00)	野球 6,637 ソフトボール 53 サッカー 163 グラウンドゴルフ 155 その他 550
大畠グラウンド	神代1675番1	5:00~20:00 (12月28日~1月4 日は、9:00~17: 00)	軟式野球 3,991 ソフトボール 160 グラウンドゴルフ 3,162 その他 1,005
伊陸地区体育館	伊陸12442番地7	9:00~21:00	12,273
伊陸グラウンド	伊陸12442番地8	5:00~22:00	3,190

施設名	所在地	利用時間	令和5年度 利用人数（人）
阿月地区グラウンド	阿月1729番地1	— ※令和5年7月～令和6 年1月は、解体工事のため利用停止	1,770 〔 参考：令和4年度 〕 3,076
伊保庄地区グラウンド	伊保庄3484番地1	—	1,140
遠崎地区体育館	遠崎340番地	9:00～21:00	8,508
遠崎地区グラウンド	遠崎340番地	—	310
弓道場	南浜一丁目3番14号	9:00～22:00	11,269
大畠ふれあい公園	遠崎1166番地	9:00～22:00	436
日積キャンプ場	日積4300番31	—	128
F U J I B O 柳井化学武道館 （武道館）	南浜三丁目2番3号	9:00～22:00	柔道 479 剣道 4,759 居合道 215 空手 7,991 合気道 3,795 少林寺 55 その他 2,511 会議室等 2,615
アデリーホシパーク （柳井ウェルネスパーク）	新庄1326番地1	火～土 8:30～21:30 日・祝 8:30～18:00	
テニスコート			14,745
アクアヒルやない			79,729
多目的広場			14,001

4 スポーツ組織・大会等

① 柳井市スポーツ協会（登録団体数 21 団体）

（令和6年度）

	団体名	会員数		団体名	会員数
1	柳井市野球連盟	577	12	柳井市陸上競技協会	23
2	柳井ソフトボール協会	200	13	柳井市卓球協会	30
3	柳井市バスケットボール協会	39	14	柳井市スキー連盟	47
4	柳井ソフトテニス協会	40	15	柳井市アーチェリー協会	13
5	柳井市テニス協会	40	16	柳井市フェンシング協会	40
6	柳井市剣道連盟	56	17	柳井市バレーボール協会	20
7	柳井市柔道協会	28	18	柳井市水泳連盟	18
8	柳井市合気会	40	19	柳井市バドミントン協会	30
9	柳井市弓道連盟	38	20	柳井サッカー協会	241
10	柳井市空手道連盟	50	21	柳井市グラウンド・ゴルフ協会	61
11	柳井市レスリング協会	40	合 計 1,671人		

② 柳井市スポーツ少年団（登録団体数 21 団体）

（令和6年度）

	競技	団体名（スポーツ少年団）	対象	団員数
1	空手	武心会柳井空手	4歳から	16
2	空手	和道会空手道正心館	年齢不問	11
3	バスケットボール	柳井バスケットボール	小学生	29
4	バドミントン	柳井JBC	小学生・中学生	20
5	ソフトボール	余田みどり	年中から小学生	18
6	軟式野球	柳北	小学生	16
7	軟式野球	柳井ゴールドスターズ軟式野球	小学生	22
8	水泳	やないスイミングクラブ	小学生から高校生	23
9	水泳	柳北水泳	小学生から高校生	35
10	軟式野球	伊陸ひむろ	小学生	9

	競技	団体名（スポーツ少年団）	対象	団員数
11	サッカー	S Aファイターズ	年長から小学生	24
12	軟式野球	新庄ブルーイーグルス	年長から小学生	11
13	バレーボール	柳井S Aボンバーズ	幼児（年長）から中学生	14
14	硬式野球	ヤングS Aダイヤモンドズ	中学生	10
15	柔道	斉藤柔道クラブ	小学生	15
16	軟式野球	大島うずしおマリーンズ	小学生	21
17	レスリング	大島レスリング	幼児から中学生	15
18	剣道	新庄少年剣友会	小学生から大人	19
19	剣道	カワノ道場	小学生	10
20	バスケットボール	新庄ミニバス	小学生・中学生	15
21	バレーボール	ユナイトJVC	小学生・中学生	17
合 計				370人

③ 柳井市スポーツ推進委員の活動

市民の健康づくりとスポーツ活動の推進に向け、18人のスポーツ推進委員が地域のスポーツイベントの企画・運営をはじめ、競技の普及や指導など多様な活動に取り組んでいます。

主な活動	活動概要
市スポーツ行事の支援	市民スポーツ・レクリエーションのつどい、市民駅伝競走大会、ロードレース大会、健康ハイキングなどのイベントの運営、支援を行っている。
研修会への参加	県スポーツ推進委員協議会研修会、中国地区スポーツ推進委員協議会研修会及び市スポーツ推進委員協議会に参加している。研修会ではスポーツに関する講習、実技指導など委員の資質向上を図っている。

④ 市が主催する主な大会

行事名	概 要	令和5年度 参加者数
市民スポーツ・レクリエーションのつどい	誰もが気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加・体験できる市民総参加型のスポーツ行事を開催。市民一人ひとりの生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の実践意欲の喚起とスポーツに親しみ、健康体力づくりへの関心を高めることを目的に、市内7か所で、ニュースポーツ等の体験プログラムやスポーツ市民大会を開催。	延べ 1,937人
市民駅伝競走大会	市内在住、在勤・在学の中学生以上を対象に実施する駅伝大会。全5区間15.1kmで競われる大会を開催。	41チーム 317人
柳井市ロードレース大会	マラソン競技を通じた生涯スポーツの推進、心身の健康づくりと相互の親睦を図るため、ロードレース大会を開催。 競技の部（1～10km 13部門） 健康の部（1km）で実施 ※競技の部は小学生4年以上が対象	309人 （競技の部 201人） （健康の部 108人）
琴石山健康ハイキング大会	柳井の自然にふれながら、家族や友人とともにハイキングをすることにより、心身のリフレッシュと健康の保持・増進を図るとともに、参加者相互の親睦を深めることを目的に開催。	250人
柳井市スポーツ少年団駅伝競走大会（親子交歓会）	駅伝競技を通じて、心身の健康と体力向上を図り、団員相互の親睦を深めることを目的に開催。 小学1・2年の部、小学3・4年の部は4人、親子の部、5・6年の部は5人でチームを編成し、駅伝競技を実施する。あわせて小学6年生団員や中学3年生団員等の表彰も行う。	27チーム 118人

5 前計画の達成状況

前計画の目標指標と達成状況は下記のとおりです。

(1) 市民のスポーツ活動実施率

目標指標	前回（H25）	現状値（R6）	目標値（R6）
市民のスポーツ活動実施率（市民の週1回以上のスポーツ実施率：20歳以上）	30.4%	26.3%	50%

令和6年度の現状値では、平成25年度の調査時と比較して、4.1ポイント低下しており、新型コロナウイルス感染症等の影響を受けたものと考えられますが、引き続き目標値の達成に向けて、生涯スポーツの推進に取り組む必要があります。

(2) 全国大会への出場者数

目標指標	前回（H25）	現状値（R6）	目標値（R6）
全国大会への出場者数（団体を含む。）	延べ97人	延べ（R5） 163人	延べ200人

令和5年度の全国大会出場者数は、平成25年度の調査時と比較して66人の増加となっています。近年、全国大会での活躍を重ねた選手が、さらに世界の舞台へと羽ばたいています。その象徴として、パリ2024オリンピックでは、本市出身の河村勇輝選手（バスケットボール）と保木卓朗選手（バドミントン）が活躍し、多くの市民が応援しました。また、柳井商工高等学校女子バドミントン部は全国大会8連覇という偉業を達成しています。

こうした成果を踏まえ、今後も全国レベルでの競技力向上を図るとともに、地域に根ざした競技振興を進める必要があります。

(3) スポーツ少年団登録状況・スポーツボランティアへの関わり

目標指標	前回（H25）	現状値（R6）	目標値（R6）
スポーツ少年団登録状況（登録割合：団員数／児童数）	33%	30.0%	50%
スポーツボランティアへの関わり（どちらかといえば関わりたいも含む。）	22.4%	16.1%	50%

スポーツ少年団の登録状況については、平成25年度の調査時と比較して3ポイント減少しており、今後も少子化の進行に伴い、児童数の減少とともに団員数も緩やかに減少していくことが想定されます。しかし、登録率は30.0%と県内でも高く、山口県は全国的にも高い水準にあります。引き続き、指導者や保護者、学校などと連携し、スポーツへの参加を促進するための情報提供が必要です。

スポーツボランティアへの関わりについては、コロナ禍の影響によるスポーツイベントや活動機会の減少に加え、高齢化の影響もあり、ボランティアに参加する人の減少が懸念されます。こうした状況を踏まえ、より多くの人々がスポーツ活動に関わりやすくなるような取り組みが必要です。

(4) 主要大会等の参加者数

目標指標	前回（H25）	現状値（R6）	目標値（R6）
主要大会等の参加者数（市主催）	延べ 4,500人	延べ（R5） 2,931人	延べ 6,000人

令和6年度の現状値では、平成25年度の調査時と比較して、参加者数が1,687人減少しています。主な要因として、少子化による若年層の減少や高齢化に伴う参加意欲の低下が考えられます。また、新型コロナウイルス感染症の影響で大会が中止・縮小されたことも、参加者減少に影響を与えた可能性があります。特に、参加者の大会への関心や習慣が以前と比べて変化し、回復が進みにくい状況にあることも考えられます。

参加者数の回復・増加に向けて、広報の強化や、初心者や高齢者向けの種目の導入、気軽に参加できるイベントの開催などが必要です。

(5) 体育施設の年間利用者数

目標指標	前回（H25）	現状値（R6）	目標値（R6）
体育施設の年間利用者数	延べ 380,000人	延べ（R5） 466,605人	延べ 430,000人

令和6年度の現状値では、平成25年度の調査時と比較して86,605人増加し、目標値を上回る結果となりました。この増加は、市民が積極的に体育施設を利用していることを示しており、スポーツや健康づくりに対する関心の高まりがうかがえます。特に、中高生の部活動の練習場所としての活用や、社会体育団体の活動回数の増加が大きく影響していると考えられます。

今後も、多様な世代が利用しやすい環境を整備し、さらなる利用促進を図ることが必要です。

第3章 計画の基本理念と基本方針

1 基本理念

国、山口県の基本理念及び本市のスポーツを取り巻く現状と課題を踏まえ、本計画の推進に当たり、以下のとおり基本理念を定めます。

スポーツの力で、健康と笑顔があふれる柳井へ

スポーツには、心と体を健やかにし、人と人をつなぐ力があります。市民が気軽にスポーツに親しめる環境を整えることで、健康の維持・増進を図り、世代を超えた交流を深め、地域の一体感を育みます。歴史と伝統を受け継ぐ「スポーツのまち 柳井」として、誰もが笑顔で暮らせるまちを目指します。

2 基本方針

本計画では、基本理念の実現に向けて、次の3つの施策の柱を設定し、スポーツ施策を推進していきます。

3 施策の柱

(1) スポーツを「つくる／はぐくむ」

市民一人ひとりの関心、適性及び健康状態等に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツを推進します。また、健康増進及び安全確保の推進を図るとともに、障がい者スポーツの推進に取り組みます。

(2) スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

市民がスポーツ活動を主体的に協働することにより交流人口の拡大や地域の活性化を推進し、スポーツによるまちづくりを進めます。また、多くの市民が日常的に、気軽にスポーツ活動に取り組むことができるよう、スポーツ施設の整備、充実を図ります。

(3) スポーツに「誰もがアクセスできる」

スポーツイベントの開催や関係団体との連携によりスポーツ参画機会の拡大を目指します。また、地域の指導者やボランティア等のスポーツを支える人材の育成に取り組みます。

子どもたちが生涯にわたって運動やスポーツに親しめるよう、地域スポーツ団体との連携を強化するとともに、学校部活動の地域連携や地域移行（地域展開）を推進し、地域と一体となったスポーツ環境の整備を進めます。

4 施策体系

基本理念	施策の柱	基本施策
スポーツの力で、 健康と笑顔があふれる柳井へ	1 スポーツを 「つくる／はぐくむ」	(1) 生涯スポーツの推進 (2) 障がい者スポーツの推進 (3) 競技力の向上推進
	2 スポーツで 「あつまり、ともに、つながる」	(1) 親しみやすいスポーツ環境の創出 (2) スポーツを通じた地域交流及び地域活性化 (3) スポーツ施設の整備と利用者の満足度向上
	3 スポーツに 「誰もがアクセスできる」	(1) 地域に根付くスポーツの推進 (2) 指導者等の育成及び連携 (3) 学校部活動の地域連携・地域移行（地域展開）

第4章 計画の具体的な取組

1 施策の柱1 スポーツを「つくる／はぐくむ」

性別、年齢、体力、障がいの有無に関係なく、子どもがスポーツに親しむ機会を提供するとともに、高齢者や障がい者を含むすべての市民が、興味や目的に応じて、いつでも・どこでも・いつまでもスポーツを楽しめる環境を整備します。また、それぞれのライフスタイルやライフステージに応じたスポーツの機会を創出します。

さらに、全国や国際大会で活躍できる選手の育成・強化を進めるため、ジュニア期の競技力向上に重点を置き、スポーツ団体や学校と連携して指導体制の充実を図ります。また、トップアスリートによる指導機会の提供や競技団体への支援を通じ、選手の成長を促し、市全体の競技力向上に努めます。

数値目標

① 週1回以上運動・スポーツを行う人（18歳以上）の割合	
令和6年度 26.3% ⇒ ⇒ ⇒ 令和16年度 50%	
② 全国大会への出場者数（団体を含む。）	
令和6年度 (R5) 延べ163人 ⇒ ⇒ ⇒ 令和16年度 延べ200人	

(1) 生涯スポーツの推進

【現状と課題】

アンケート調査によると、本市で週1回以上スポーツ活動を行っている人の割合は26.3%にとどまっています。スポーツ庁の「第3期スポーツ基本計画」では、成人の週1回以上のスポーツ実施率の目標を70%（障がい者は40%）としています。本市としても、この数値の向上を目指し、気軽にスポーツにふれあい、楽しめる環境づくりが必要です。

また、スポーツ活動を「大に行いたい」が8.5%、「行いたい」が40.2%と、約半数の市民がスポーツ活動を希望しています。具体的には、ウォーキング（59.1%）、ジムやスポーツ教室（45.2%）、ジョギング・ランニング（31.2%）と、個人でも取り組みやすい種目が上位を占めています。

一方、「行いたくない」（13.2%）、「あまり行いたくない」（22.8%）と、3割以

上の市民がスポーツ活動に消極的な意向を示しており、スポーツへの関心を喚起する取組が求められます。まずは気軽に楽しめるレクリエーションや軽度な運動を体験できる環境を整え、ライフステージに応じたスポーツ活動への参加意欲を高める必要があります。

【取組の方向】

市民が生涯を通じてスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送れるよう、幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージに適したプログラムや機会を提供し、誰もが無理なくスポーツに関われる環境を進めます。

項目	内容
子どものスポーツライフ (幼児・児童・生徒)	・ 家庭・学校・地域が連携し、遊びを通じてスポーツに触れる機会を増やすことで、子どもたちが自然とスポーツと出会える場を提供します。 ・ 生涯にわたって健康や体力を維持・向上できる基礎を養う環境を整えていきます。
若者・成人世代のスポーツライフ (青年・働き盛り・子育て世代)	・ 学校や地域等のさまざまな場面で、スポーツの意義や楽しさを実感できる機会を創出し、スポーツへの関心を高める取り組みを進めます。 ・ 子育て世代や働き盛りの世代には、親子で楽しめるスポーツやレクリエーション活動を充実させ、家族でスポーツに親しむ機会を増やします。
シニア世代のスポーツライフ (中高年・高齢者)	・ 中高年層には、健康維持や体力づくりを目的としたスポーツ活動を促進し、スポーツを楽しむ習慣の定着を目指します。 ・ 高齢者の生きがい活動や健康づくり推進事業や介護予防事業などと連携し、スポーツや運動を通じて、高齢者の健康の維持や生きがいづくり、仲間づくりを支援します。

（２）障がい者スポーツの推進

【現状と課題】

アンケート調査によると、障がいのある方のスポーツ活動について、「普及していると思われる」「あまり思わない」と回答した人が９割を超えており、障がい者スポーツの認知度や普及が十分でないことが課題となっています。障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツに参画できる環境を整備するとともに、障がい者スポーツへの関心を高め、その裾野を広げる取組が求められます。

また、障がいの種類や程度に応じたプログラムやイベントの開催を通じて、スポーツに触れる機会を提供するとともに、施設のバリアフリー化を推進し、障がいのある方もない方も共に参加・交流できるスポーツ活動やレクリエーションの機会を充実させる必要があります。

【取組の方向】

障がいのある方が安心してスポーツに親しめる環境づくりに努め、誰もがスポーツを楽しめる社会の実現を目指すとともに、施設のバリアフリー化に取り組みます。

項目	内容
障がい者スポーツライフ	・ 体育施設のバリアフリー化を進めるとともに、障がいの種類や程度に応じて、安心・安全にスポーツを楽しめる環境づくりに努めます。 ・ プログラムやイベントの充実を図り、スポーツに触れる機会を増やします。
障がい者スポーツへの理解と環境整備	・ 障がい者がスポーツを楽しめるよう、イベント開催時の合理的配慮を進め、参加しやすい環境づくりに取り組みます。 ・ 山口県障害者スポーツ協会、柳井市社会福祉協議会及び市担当部署等と連携し、各種スポーツへの障がいのある人への参加機会の拡大及び障がい者スポーツの競技力向上に努めます。
山口県障害者スポーツ大会（キラリンピック）の周知と参加支援	・ 障がいのある方の社会参加と理解の促進を目指し、キラリンピックの周知と参加支援に努め、障がい者スポーツの普及を進めます。

(3) 競技力の向上推進

【現状と課題】

オリンピックやその他の国際大会、国民スポーツ大会などで活躍するトップレベルの選手を育成するためには、中・長期的な視点に立ち、次世代アスリートの発掘や計画的な選手・指導者の育成に努めることが求められます。

令和6年度には、本市出身の2人の選手がオリンピックで活躍したほか、柳井商工高等学校バドミントン部女子が全国高校総体及び全国高校選抜大会で優勝し、全国大会で9連覇という偉業を成し遂げるなど、多くの市民に夢と感動をもたらしました。

また、第78回国民スポーツ大会には8種目19人の選手が出場しており、今後も全国レベルでの活躍が期待されています。

このような選手の活躍を継続していくためには、長期的な視点で選手の育成・強化に取り組む必要があります。有望なアスリートの早期発掘に努めるとともに、全国レベルでの競技力向上を支援する取組を推進し、選手がより高いレベルで活躍できる環境を整える必要があります。

【取組の方向】

選手の競技力向上を支援するため、スポーツ団体や関係機関との連携を強化し、安定した競技環境の整備に努めます。また、トップアスリートの育成を推進し、全国や国際舞台で活躍できる選手を育てるための支援を行います。

項目	内容
スポーツ団体との連携による育成支援	・柳井市スポーツ協会（以下「スポーツ協会」という。）を中心に、競技団体の安定した活動を支援し、競技レベルの向上に努めます。特に、ジュニア期のアスリートの育成・強化に取り組み、将来のトップアスリートの輩出を目指します。 ・企業・大学と連携しスポーツ教室を開催し、技術向上の機会を提供することで、競技者の育成に取り組みます。
選手・団体への支援	・県スポーツ大会・全国大会に出場する市民に対し大会出場激励費を支給し支援します。 ・スポーツ協会と連携し、全国大会などで優秀な成績を収めた選手を表彰するとともに、競技への意欲を高め、さらなる技術向上を促進します。

トップアスリートや競技団体への支援	・全国や国際大会で活躍できるアスリートの育成を進めるため、トップアスリートや成績優秀な競技団体への支援を充実させ、競技力の向上に取り組めます。 ・本市出身又は本市にゆかりのある選手が国際規模の大会に出場した際、あるいは国際規模又は全国規模の大会で優秀な成績を収めた際には、横断幕などを掲出し、その功績を称えとともに、さらなる活躍を応援します。 ・本市出身や本市にゆかりのあるトップアスリートの活躍を広く発信し、その応援を通じて市民のスポーツへの関心を高めるとともに、本市の魅力向上に努めます。
--------------------------	--

2 施策の柱2 スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

市民の誰もが身近な場所で気軽にスポーツに親しみ、楽しめるスポーツ環境を整備するため、気軽に参加できるスポーツやレクリエーションイベントを実施します。

また、交流人口の拡大や地域活性化を図るため、競技大会やスポーツイベントを活用し、人々の交流を促進します。特に、スポーツ合宿やスポーツ大会の誘致を進め、市内外の人々が集い、共に楽しみながら交流を深める機会を創出します。

さらに、本市のスポーツ施設は老朽化が進んでおり、計画的に更新・修繕を行い、施設の長寿命化を図ります。あわせて、学校体育施設等の活用を促進し、誰もが利用しやすい環境を整備します。

また、DXを活用した予約システムの導入など、利便性の向上にも取り組みます。

数値目標

① 主要大会等の参加者数（市主催）

令和6年度（R5）延べ 2,931人 ⇒ ⇒ ⇒ 令和16年度 延べ5,000人

② 体育施設の年間利用者数

令和6年度（R5）延べ466,605人 ⇒ ⇒ ⇒ 令和16年度 延べ500,000人

（1）親しみやすいスポーツ環境の創出

【現状と課題】

小中学生へのアンケート調査では、スポーツをすることが「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合が87.0%となっており、多くの子どもがスポーツに関心を持っています。子どもがスポーツに関わるためには、スポーツに取り組むきっかけをつくり、親の理解を深めることが大切です。誰もが気軽にスポーツを始められるよう、親子で楽しめるイベントの開催や、多くのスポーツに触れる機会の提供など、様々な取組が必要です。

また、市民がスポーツに関する情報を得やすいよう、広報やホームページ、SNS等を活用した情報提供の充実も求められています。

【取組の方向】

親子で楽しめるスポーツイベントの開催や、多様なスポーツに触れる機会を提供し、世代を超えてスポーツに親しめる環境を整えます。また、初心者でも参加しやすいプログラムを充実させるとともに、スポーツに関する情報を積極的に発信し、市民が気軽にスポーツを始められ

る環境づくりを進めます。

項目	内容
誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの推進	・誰もが気軽に参加できるスポーツやレクリエーションの交流イベントの開催を推進します。 ・ニュースポーツの普及を進め、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめる環境づくりに取り組みます。 ・スポーツイベントなどに参加した人が、継続してスポーツやレクリエーション活動に親しめるよう支援します。
楽しみながら取り組めるスポーツの普及促進	・スポーツを始めるきっかけづくりや、親子で楽しめるレクリエーションの充実を図るとともに、家庭でのスポーツ習慣の定着を促します。 ・親子が一緒に体を動かしながら交流を深める機会を提供し、スポーツを通じた健康づくりや絆づくりを推進します。
スポーツ関連情報の周知・啓発	・多くの市民がスポーツに参加できるよう、スポーツイベントや団体、施設情報を市広報やホームページ、SNSを通じて情報発信します。

（２）スポーツを通じた地域交流及び地域活性化

【現状と課題】

スポーツを通じた地域活性化の取組として、スポーツを通じた交流人口の拡大を目指し、スポーツ合宿補助金制度を設けています。令和５年度には、バドミントン競技に取り組む高校生の団体や日本体育大学を含む９団体が柳井市で合宿を実施し、地域のスポーツ活動の活性化や地域振興に大きく寄与しました。その結果、延べ１，９７９人が本市を訪れ、前年の約２．５倍の利用者数となり、スポーツを通じた交流の広がりが見られました。また、日本体育大学野球部によるスポーツ少年団を対象とした野球教室も開催され、地域の子どもたちとの交流が深まりました。

さらに、バタフライアリーナのリニューアルオープンを記念し、令和７年２月１１日に「Ｔリーグ 日本生命レッドエルフ ホームゲーム」を日本生命と共催しました。世界で活躍するトッププレイヤーの試合を間近で観戦できる貴重な機会となり、約１，１００人の観衆が訪れ、大きな盛り上がりを見せました。このようなトップレベルの競技の開催は、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、地域スポーツの振興にもつながるものです。

地域外からの来訪者の増加をさらに進めるためには、スポーツを活用した受入体制の強化や環境整備が必要です。

【取組の方向】

スポーツは、健康増進や体力向上だけでなく、地域の活性化や交流促進、観光振興、教育・人材育成、さらには地域経済の発展にも寄与する重要な要素です。特に、スポーツ大会の開催や合宿の誘致などは、市内外の人々の交流を生み出し、地域の魅力発信や経済波及効果をもたらします。スポーツを活用したまちづくりを推進し、地域の活性化を進めていきます。

項目	内容
スポーツによる地域活性化	・スポーツ大会や合宿を通じた観光振興は、関連産業の活性化や来訪者の消費拡大につながり、スポーツを活用したまちづくりの重要な要素となります。 ・スポーツ交流を促進するため、スポーツ大会の開催や合宿の誘致に積極的に取り組みます。
スポーツを通じた地域連携	・地域のスポーツ団体や学校と連携し、スポーツイベントや交流事業を積極的に開催することで、市民のスポーツ参加の機会を広げるとともに、地域内外の人々の交流を進めます。

(3) スポーツ施設の整備と利用者の満足度向上

【現状と課題】

本市のスポーツ施設は多くの市民に利用されていますが、老朽化による修繕・改修費用や維持管理コストの増大といった課題が顕在化しています。今後は、利用者のニーズを踏まえ、計画的な維持管理を継続するとともに、既存施設の有効活用を進めることが求められます。

こうした状況の中、バタフライアリーナでは、令和5年度と令和6年度にわたり大規模改修を実施し、耐震化や長寿命化を図るとともに、空調設備を整備し、避難所としても活用できる施設へと生まれ変わりました。また、老朽化した弓道場については、柳井商業高等学校跡地に新たに建設中です。

他の体育施設についても、老朽化が進んでいるものが多く、今後も安全な利用を確保するため、計画的に更新・修繕を行い長寿命化を図る必要があります。また、子ども、高齢者、障がい者を含むすべての市民が快適に利用できるよう、それぞれのニーズに応じた施設整備や用具の充実を進めることが必要です。

【取組の方向】

スポーツ施設が競技や地域スポーツに幅広く活用されるよう、計画的に修繕・改修を進め、安全で快適な環境を整備します。市民ニーズを踏まえた管理運営を行うとともに、DXを活用し、利便性を向上させます。また、学校体育施設などの公共施設の活用を促進し、市民が身近な場所でスポーツを楽しめる環境を充実させます。

項目	内容
スポーツ施設の計画的な整備と機能向上	・スポーツ施設について、安全で快適に管理・運営できるよう、長期的な視点を持ち、計画的に更新・修繕を行い、長寿命化を図ります。 ・老朽化が進んでいる施設については、適切な修繕・改修を行い、施設の安全性と利便性を確保します。 ・大規模災害時の避難場所としても活用できるよう、耐震化や防災機能を備えた施設整備を推進します。 ・バリアフリー化やユニバーサルデザインの導入など、誰もが利用しやすい施設整備を進めます。
学校施設の利活用の促進	・学校体育施設を活用し、市民が気軽にスポーツ活動を行えるよう「学校体育施設開放事業」を推進します。

ニーズに応じた施設の管理・運営	・各施設の利用状況や市民ニーズを踏まえ、利用方法などの改善を図り、利用しやすい施設運営を行います。 ・D Xを活用した施設予約システムの利用促進を図り、事務手続きの簡素化を進めることで、市民サービスの向上と施設の効率的な運営を推進します。
-----------------	--

3 施策の柱3 スポーツに「誰もがアクセスできる」

市民誰もがスポーツにアクセスできる環境を整えるため、スポーツを支える基盤強化を図ります。地域スポーツを支える団体の活動を支援し、連携を深めることで、市民が身近にスポーツを楽しめる機会を広げ、初心者や障がいのある方、高齢者など、多様な人々が参加できる環境づくりを進めます。

また、指導者や地域のスポーツ活動を支えるボランティアの育成を推進し、誰もが安心してスポーツに取り組める体制づくりに取り組みます。

さらに、学校や地域スポーツ団体と連携し、学校部活動の地域連携や地域移行（地域展開）を進めることで、子どもたちが継続してスポーツに親しめる仕組みを構築します。

こうした取組を通じて、市民がスポーツに触れる機会を広げるとともに、地域のつながりを深め、地域スポーツの活性化を図ります。

数値目標

①	スポーツ少年団登録状況（登録割合：団員数／児童数）				
令和6年度	30.0%	⇒	⇒	⇒	令和16年度 50%
②	スポーツボランティアへの関わり（今後の関わり方について）				
関わりたい（どちらかといえば関わりたいも含む。）					
令和6年度	16.1%	⇒	⇒	⇒	令和16年度 50%
③	部活動指導員数（地域連携）				
令和6年度	7人	⇒	⇒	⇒	令和16年度 29人（中学校部活動数）
④	新たな地域クラブ活動（地域移行〔地域展開〕）				
令和6年度	0団体	⇒	⇒	⇒	令和16年度 中学校部活動全種目

（1）地域に根付くスポーツの推進

【現状と課題】

地域に根付くスポーツ環境を整備するためには、担い手となるスポーツ協会、競技団体、学校、スポーツクラブなどの関係団体との連携を強化する必要があります。

本市においては、将来的な学校部活動の地域移行（地域展開）を見据え、総合型地域スポーツクラブの設立や運営体制の構築を進めることが求められます。子どもから高齢者、障がい者まで、多様な世代がそれぞれの志向やレベルに応じてスポーツに親しめる環境を整え、地域のスポーツ活動を支える仕組みを整えていく必要があります。

【取組の方向】

地域スポーツを支えるスポーツ協会や競技団体の活動を支援し、関係強化に取り組みます。

また、スポーツ推進委員やスポーツ団体と連携し、子どもたちが運動やスポーツに親しみながら成長できる環境を整え、地域スポーツの基盤強化を図ります。

項目	内容
スポーツ関係団体との連携及び活動支援	・ 地域スポーツを支えるスポーツ協会やその所属団体、スポーツ少年団等の活動を支援し、関係強化に取り組みます。 ・ スポーツ推進委員、スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ施設指定管理者等と連携し、スポーツイベントや教室などを開催することで、市民のスポーツ活動の充実を図ります。 ・ 健康・福祉分野の関係機関と協力し、介護予防や体力向上・健康維持を目的とした運動環境を整えます。 ・ 医師や理学療法士などの専門家と連携し、スポーツ実践に必要な医・科学の知識を学ぶ機会を創出します。
総合型地域スポーツクラブの設立支援	・ 総合型地域スポーツクラブは、身近な地域でスポーツに親しめる新しい形態のクラブであり、子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルの選手まで、それぞれの志向やレベルに応じて参加できることが特徴です。地域住民が自主的・主体的に運営し、多様なスポーツ活動を支える役割を担います。今後、学校部活動の地域移行（地域展開）の推進と歩調を合わせ、地域でのスポーツ振興やスポーツを通じた地域づくりに取り組む団体の設立を支援します。
地域の特色を活かしたスポーツの推進	・ 本市では、昭和33年の柳井高等学校硬式野球部の夏の甲子園優勝をはじめ、市内学校の卓球・水泳競技の全国大会優勝や、本市出身選手のバスケットボール・バドミントン競技における2024オリンピック出場など、スポーツの実績を積み重ねてきました。これにより、市民が「する」「みる」「ささえる」さまざまな立場からスポーツに関わる機運が高まっています。今後も、競技力向上の機会を広げるとともに、スポーツ活動を通じて地

	域に根ざした競技振興を進めます。
--	------------------

(2) 指導者等の育成及び連携

【現状と課題】

スポーツの実践において、指導者の存在は不可欠です。しかし、公式な団体活動では種目ごとに資格が求められ、公認スポーツ指導者資格の普及が十分に進んでいないのが現状です。また、指導者のみでは質の高いスポーツ活動の継続が難しく、市民のスポーツ活動を支えるスポーツボランティアの育成や資質向上にも取り組む必要があります。

【取組の方向】

スポーツ指導者やボランティアの育成を進め、地域のスポーツ活動を支える人材を確保します。また、研修や体験の機会を提供し、安心して活動できる環境を整備します。

項目	内容
スポーツ指導者の育成	・ 各種スポーツ指導者の資格取得を促進し、高い指導力と専門知識を持つ指導者を育成に努めます。 ・ 大学等と連携し、部活動指導員やスポーツ少年団の指導者に向けたスポーツ、医科学講習会を開催します。
スポーツボランティアの活性化と支援	・ 気軽に楽しくボランティアを体験できる機会を提供し、関心を持つ人を増やすとともに、継続的に活動できる環境を整えます。 ・ 研修会や実践的な講習を通じて、ボランティアのスキル向上を図り、スポーツを支える人材を育成します。
スポーツでつながる地域づくり	・ スポーツ推進委員や地域スポーツ団体と連携し、本市のスポーツ振興を推進する。

(3) 学校部活動の地域連携・地域移行（地域展開）

【現状と課題】

学校部活動は、スポーツや文化芸術活動に親しむ機会の確保にとどまらず、教科学習とは異なる集団での教育活動を通じた人間形成の貴重な場です。学習意欲の向上や責任感・連帯感の^{かんよう}涵養、自主性の育成、人間関係の構築、自己肯定感の向上、問題行動の発生抑制、学校への信頼感・一体感の醸成等、多くの教育的意義を有する部活動は、日本独特の文化として定着してきました。

また、部活動指導は、教員が生徒の様々な表情を把握する貴重な機会でもあり、生徒一人ひとりの成長や取り組む姿勢を理解し、認め支援することを通して、生徒の進路実現や生徒との信頼関係の構築など、教員自身にとっても大切な学びの場となり、若手教員の成長にも大きく寄与しているところです。

さらには、本市のスポーツ・文化芸術振興の一翼を担っており、子どもたちが部活動を通じて生涯にわたってスポーツや文化芸術活動に親しむための基盤を身に付けることは、豊かな人生を送ることにもつながります。

しかし、学校部活動は、これまで教員の献身的な取組によって支えられてきた実態があります。昨今の急速な少子化に伴う学校規模の縮小や教員数の減少により、これまで同様の体制を維持することが困難になっています。特に、教員のワークライフバランスは喫緊の課題であり、専門性や意向に関わらず教員が顧問を務める部活動は持続可能とはいえず、早急に見直す必要があります。

【取組の内容】

「柳井市学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を令和7年2月に策定し、その計画に基づいて、学校部活動の地域連携・地域移行（地域展開）を段階的に進めることで、生徒が継続してスポーツや文化・芸術活動に親しめる環境の整備を図ります。また、地域指導者の確保・育成に努めるとともに、活動地域や費用面への配慮を行い、活動を希望する全ての生徒が参加できるよう取り組みます。

項目	内容
学校部活動の地域連携や地域移行（地域展開）の推進	・子どもたちが、将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するため、地域指導者による部活動指導員や外部指導者の充実を図ります。 ・地域移行（地域展開）に当たり、生徒や保護者の負担をできる限り少なくするため、活動地域の範囲や実施競技種目、費用面などを検討し、活動を希望する全ての生徒が参加できるよう取組を進めます。 ・地域連携の推進や新たな地域クラブ活動の創設、運営及び実施が円滑に行われるよう学校及び行政と地域のスポーツ・文化芸術の関係団体等との連携、調整などの役割を担う総括コーディネーターの配置を行います。

新たな地域クラブ活動の創設	・新たな地域クラブ活動においては、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させるとともに、新たな価値を創出していくことが重要です。そのため、生徒のニーズに応じた多様な体験の提供、個性や得意分野の尊重、学校の枠を超えた仲間とのつながりの構築、地域の様々な人々や幅広い世代との交流の促進、適切な指導者による質の高い指導、学校の枠組みにとらわれない継続的な活動及び地域クラブの指導者による一貫した指導が可能な体制の整備に取り組みます。
部活動の地域指導者の発掘・育成	・スポーツ協会の所属団体、スポーツ少年団の競技指導経験者、退職教員など、専門的な指導が可能な種目別指導者を発掘し、連携して生徒の活動機会を確保します。 ・研修会等を通じて部活動の地域指導者の人材育成と資質の向上に取り組みます。

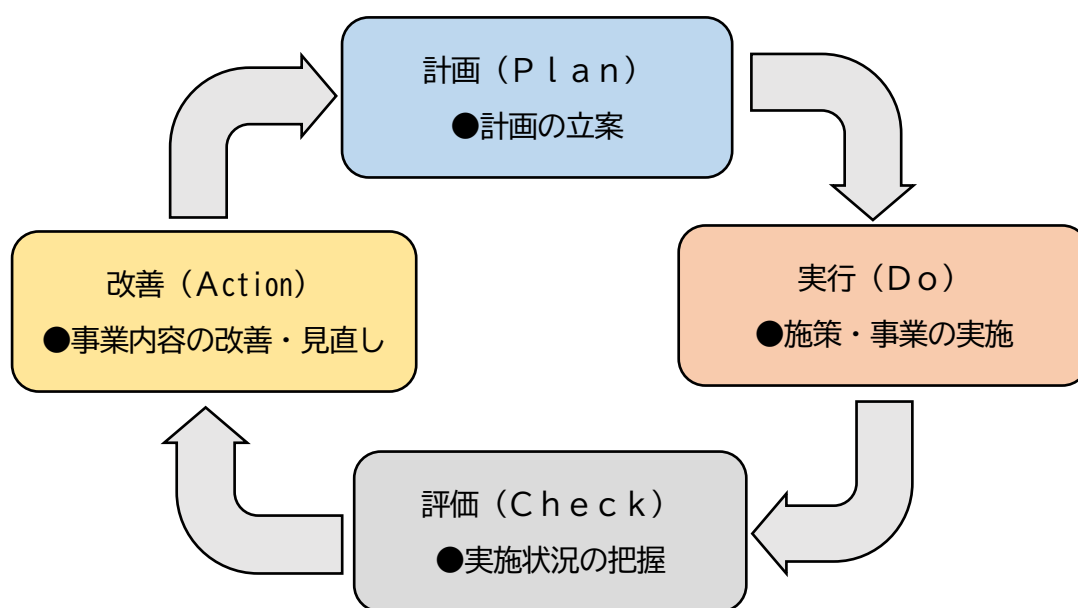
第5章 計画の推進体制

1 市民・関係機関との連携・協働

本市では、スポーツ協会所属団体やスポーツ少年団等が活発に活動しており、スポーツの推進に重要な役割を果たしています。本計画の施策の推進に当たっては、行政だけではなく、スポーツ関係団体をはじめとし、市民、自治会・地区コミュニティ、学校、民間企業等と協働し、計画の着実な推進に取り組めます。

2 計画の進捗管理

本計画は、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）に基づく進行管理（PDCAサイクル）によってマネジメントを行い、諸事業が円滑に実施され目標が達成されるよう課内での進捗状況の把握や柳井市スポーツ推進審議会での意見を参考にしながら、必要に応じて事業の見直しを行うなど、適正な進捗管理を行います。



3 計画の達成状況の検証

計画の達成状況については、数値目標の適否を検証し、計画の見直しに当たっては、スポーツを取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、着実かつ効果的な改善方策を検討することとします。